

朝夕めっきり涼しくなり過ごしやすい季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年は、「コロナ、コロナ…」と騒がれ大変な春夏でしたが、まだまだ油断できない状況です。美味しいものを食べて心地よい音楽を聴いて、免疫力アップに努めましょう。

早く皆様と一緒にフルートを吹くことができるようになりますように!!

#フルート・フェスティバルについて【重要】

2021 年 3 月 21 日(日)の岡山フルートの会のフルート・フェスティバルの開催について、会員の皆さまにアンケートを実施しましたので、以下にその結果をご報告します(単位:人)。

会員:202, 返信:74, 参加:38※, 不参加:36, 実行委員で活動する:14

※参加の内訳/ジュニア:2, ルミエール:14, アヴァンテ:22(セレーナを含む)

アンケート結果を受けて理事会は、メールによって理事会の皆さんのご意見を集約した上で、対面の会議を開催する予定でした。ところが、理事会のメンバー全員が開催に前向きなことから、会議を開くことなく理事会としてフェスティバルを開催する旨を決定しました。

以上のことから、10 月 20 日(火)に第 1 回のフェスティバル実行委員会を開くことになりました。実行委員を希望される方は、以下にご連絡くださいますようお願いいたします。

お問合せ:090-1015-3968 megumi.no742304@gmail.com(実行委員長:野崎さん)

#星っさんコーナー(その 165)

「思い出の人(その 12)パウル・マイゼン」 名誉会長 星島明郎

ドイツを代表する偉大なフルーティストのパウル・マイゼンさんが、去る 6 月 23 日に亡くなりました。86 歳でした。マイゼンさんはハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団やバイエルン国立管弦楽団などの首席フルート奏者を長年務められたのち、ミュンヘン音楽大学の教授を務められました。その後東京藝術大学の客員教授としても日本のフルート界に大きな貢献をされました。日本フルート協会会報の今月号に、薫陶を受けられた教え子たちの感謝の記事が多数載っていましたが、国立音大の大友太郎先生や岡山フルートの会の諸田大輔先生をはじめ岡山県出身の小池郁江さん、安原三保子さん、柴田真梨子さん、宮寄英美さんなどの懐かしい思い出話も載っており、マイゼン先生の温かいお人柄が偲ばれました。私がマイゼン先生に最初にお目にかかったのは今から 46 年前の 1975 年(昭和 50 年)で、8 月 11 日から 1 週間、静岡県富士宮市・国立音楽大学セミナーハウスで開催された「パウル・マイゼンフルート講習会」に参加した時でした。参加者の多くは国立音大の学生さんでしたが、それ以外の学生さんや一般の方も何人か居ました。私は恩師の高橋安治先生(当時国立音大教授)に誘われて、市瀬純子さん・佐柄晴代さん(現在岡山フルートの会の会員)と共に参加したのです。この講習会でまず私の心を捉えた最大の驚きは、先生の吹かれるフルートの音色でした。大友太郎先生の言葉をお借りすると「初めて耳にする先生の音色は、いったいどの方向から聞こえてくるのか分からない、

遠くからコダマしてくるような部屋全体に広がる美しい魔法の響きでした。」と。又、「それはただ単に美しいという事を超越していて、まるで天から降り注ぐ光を浴びたかの様に感じられる衝撃的な体験でした。」と書かれた方もいました。まさに私も全く同じ思いでした。毎日、一人ひとり生徒と向き合って、モイーズの「ソノリテ」(ロングトーンとアタック)を先生と生徒で交互に吹きあう音のキャッチボール。これだけでも感動の7日間でした。実はこの音のキャッチボールは録音させていただき、その後の私の生徒たちへのレッスンにも有効に使わせて頂きました。当時私が使用していたマルセル・モイーズ著「ソノリテについて(方法と技術)」の表紙の裏に、次のような記録が残っていました。「信じられないような変幻自在の色彩を持つ素晴らしいトーン。确实無比のテクニック。持っている音楽の深さが底知れない。低音は豊かで弾力がある。中音は音色の変化に富み自由自在。高音は繊細で暖かく、キリキリと何処までも遠くへ飛んで行く。楽器はホワイトゴールドのメナート。マウスピースに薄いコルクの仕掛け。胴部はストレートで左指はカバード、右指だけ穴あき。頭部管マウスホルムの中心を指板の中心に合わせている。」と書き残していました。そしてその譜面の中の書き込みには「一番大切なことは、どういう風に吹くか感じてから吹くことです。首に力が入らないように。着物を着て帯をしていても苦しくないような呼吸をなさいます。顎を引きすぎないように。楽器と口をやや前に出し、首と頭が自由に方向が変えられるように。体中の力を抜いてタコ体操。肩の高さを左右同じに。唇の力を抜く。楽器を唇に押し付けてしまわない様に。上唇が強くかぶさらない様、楽にして遠く広く響かせる。腹から来た息が楽に唇から流出するように。お腹が中心です。腹でしっかり支え、最後の音を吹いた後、やや上向きに力を抜く。はるか遠くに、富士山の頂上まで響かせよう。」等々先生の言葉を書き込んでいました。懐かしい。当時先生は42歳の若さ、ソリストとしても指導者としても最高に脂の乗り切っていた頃だったと思います。

次に、今一つお話ししたいのは、今から21年前の1999年(平成11年)に、岡山フルートの会主催(長谷川楽器店ホール)でフルートの「マスター・クラス」をして頂いた事です。公開レッスンでしたので、フルートの会の皆さんも聴講された方が大勢いらっしゃいました。マイゼン先生は当時65歳、ミュンヘン音楽大学の教授を退官されて3年目、東京藝術大学客員教授をされていた時でした。その時の受講者は岡山フルートの会会員4名で、大角利江子さん(J.S. バッハ/フルートソナタ ロ短調)、菅沼晴子さん(W.A. モーツァルト/フルート協奏曲 二長調)、奥出裕美さん(F. プーランク/フルートソナタ)、宮尾紀子さん(B. マルティヌー/フルートソナタ)でした。先生の素晴らしい音色と丁寧なご指導に感銘を受けられた方も多かったことでしょう。

【ご案内】

安達副会長よりご推薦のマイゼン先生の教則本とCDがありますのでご紹介します。

1. 教則本

「ファネル&マイゼン フルート・テクニック」音楽之友社

「タファネル=ゴーベール17のメカニズム練習」に基づいて書かれています。マイゼンさん自身が練習されただけでなく、レッスンでも使用されたそうです。

2. CD

「フルート・ソナタ集」DABRINGHAUS UND GRIMM MD+GL3255

プロコフィエフ、レーガー、ライネッケの3曲が収録されています。マイゼンさんのバッハの解釈は定評がありますが、近代曲でも味わい深い演奏です。

#演奏会情報

♪野崎めぐみフルートコンサート【岡山フルートの会後援】

日時:11月23日(月・祝)14:00開演(13:30開場)

会場:日本福音ルーテル岡山教会

入場料:一般1,500円 高校生以下1,000円

出演:野崎めぐみ(F1), 三好昌恵(Pf)

曲目:フォーレ/ファンタジー, 安田芙充央/アニーローリーファンタジー 他

予約とお問合せ:090-1015-3968(野崎さん)

♪ルネス・クラシックシリーズ Vol.3【岡山フルートの会後援】

立石和美フルートリサイタル Vol.3

日時:12月6日(日)14:00開演(13:00開場)

会場:ルネスホール(おかやま旧日銀ホール)

入場料(前売):一般/2,000円 大学生以下/1,000円【当日:各500円増】全席自由

ルネスメイト/前売1,800円【当日2,000円】

出演:立石和美(F1), 鈴木華重子(Pf)

曲目:フリーリンク/ファンタジー, フランク/ソナタ イ長調 他

お問合せ:080-1935-5644(立石さん)

#演奏会情報&チラシの会報への同封について

演奏会情報は10月30日(金)までに宮尾さん(会報係チーフ)に連絡してください。また、演奏会のチラシを会報封筒に同封・郵送(原則として奇数月のみ)を希望される場合は、A4版はそのまま(A3版は二つ折りにして)袋詰めの日時に長谷川楽器店の3階ホールに持参してください。その際、必ず事前に会報係チーフに連絡し、会報発送数を確認してください。

会報係チーフ(宮尾さん): fluteair75@yahoo.co.jp

お手数ですが、受取確認の返信がない場合は、以下のアドレスに再送信してください。

nori_ring@i.softbank.jp(会報係チーフ)

#チラシをホームページに掲載する方法について

演奏会のチラシを岡山フルートの会のホームページに掲載してほしい会員は、チラシを折らないで情報管理係の柴田さんに郵送してください。なお、チラシをPDF化できる会員につきましては、以下のアドレスにファイルを添付してお送りください。

ホームページ掲載用チラシ送付先: 柴田 聡さん

〒703-8282 岡山市中区平井 1126-52 okayama-flute@mail.goo.ne.

【会報の封筒詰めのお知らせ】

11月号の会報の封筒詰めを、11月10日(火)午後7時から長谷川楽器店3階ホールで行います。袋詰めの日時は袋詰めの日時は会報係ですが、会員の皆さまもお手伝いをお願いします。